

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第51回河内長野市地域公共交通会議
2 開催日時	令和3年12月20日15時から
3 開催場所	河内長野市役所802会議室
4 会議の概要	(1) バス路線(小深線石見川系統)の廃止に伴う代替手段の確保について (2) 下里地区におけるグリーンスローモビリティ実証実験の実施について
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	1名
7 問い合わせ先	(担当課名) 都市づくり部 都市計画課 公共交通係 (内線540、541)
8 その他	

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

## 第51回 河内長野市地域公共交通会議議事録

会議名称	第51回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	令和3年12月20日(月) 午後3時00分～
開催場所	河内長野市役所 802会議室
公開・非公開の別 (非公開とした場合はその理由)	公開
傍聴者	1人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	議題 (1) バス路線(小深線石見川系統)の廃止に伴う代替手段の確保について (2) 下里地区におけるグリーンスローモビリティ実証実験の実施について
会議内容	別紙会議内容のとおり

第51回河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	内容(要旨)
事務局	(第51回河内長野市地域公共交通会議開会の案内)
	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">議題(1) バス路線(小深線石見川系統)の廃止に伴う代替手段の確保について</p>
事務局	<p>この議題は6月の会議の続報。遠距離児童のスクールバス(地域住民混乗可能)の導入について保護者や地域住民との協議を重ね、その内容がまとまったので今回議題に挙げるものです。具体的な説明の前に今回廃線に至った経緯について南海バスさんより説明していただきます。</p>
秋元委員	<p>河内長野市の路線バスの状況については、河内長野市からはおでかけチケットなどによる利用促進策や補助金など支援をいただいていたが、一部の路線を除いて、ほぼ全域が不採算路線であった。そこへ、昨年より新型コロナウイルスの蔓延により、度々緊急事態宣言が発出され人々の行動が制限される中、バスの利用も激減してきた。昨年の一般路線の定期外収入については2019年に比べて、約30%減少。さらに高速バスやリムジンバスについては90%減少するという厳しい状況に置かれた。昨年度、当社創業以来初の赤字決算となった。これまでは、会社全体の収益で河内長野市内の不採算路線を下支えしてきたが、自力で不採算路線を維持することが困難となったことから、小深線(石見川系統)について弊社単独での運行が困難であることを河内長野市に申し入れた。</p>
事務局	<p>バス路線廃止の代替手段について説明いたします。 本議題については、案件が二つあり、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スクールバスの導入に関するもの</li> <li>2. スクールバスを補完するサービスに関するもの</li> </ol> <p>1については、交通空白地有償運送の制度で行うことから、本公共交通会議で内容について是非を問うもの。 2については、まずは試行という形で検討することから、現時点では報告案件とし、仮に本格運行に移行ということになれば改めて公共交通会議に諮る形になる。</p>
	<p style="text-align: center;">資料(議題(1))について説明</p> <p style="text-align: center;">(各委員及び事務局の主な発言内容は以下のとおり)</p>
日野副会長	<p>スクールバスの補完サービスは試行しながら、よりよく改善など変更していくとのことだが、運輸局の許認可の関係などもあるが、仮の試行の期間を定めてその時点で利用状況を見て次を考えるという手段をとるのか。</p>
事務局	<p>まずは、試行を3カ月程度と考えている。利用人数や、一便あたりの平均乗客数などについて、評価指標を決めながら、運行をすべきかどうか考えていく。</p>
日野副会長	<p>会議で報告することのことだが、このやり方だと、会議の中で議論すべき内容がわかりにくい。3カ月試行する中で、この指標がこうなったら、次にこうしようということも併せてご提案いただき、みなさんに議論してもらおうのがこの会議ではないか。</p>
事務局	<p>目標を決めるときも、今は地域と話をしているが、目標が決まったらこの会議に報告して、報告内容について意見を聞いていく。</p>

日野副会長	4月に始めるということは、4月までにまたこの会議をして、皆さんに諮るということか。
事務局	1月下旬にこの会議を開催し、その際には、具体的な指標を議題に挙げる予定。
山田委員	スクールバスを補完するサービスを検討とあるが、公共交通計画によると交通空白地帯の解消を目指すとされていてとてもありがたい。川上地区は高齢化率が高い地域。運転免許証の返納も進んでいる。河内長野つながりささえあい推進プランでは、「地域のニーズを聞き取り買い物や通院の移動支援の仕組みを検討」となっている。住民の不安の解消を空白地域についての方向性を進めてほしい。
事務局	この取り組みが他の地域の先進事例になるよう考えていきたい。
榎井会長	<p>それでは、本件における自家用有償旅客運送については承認いただき、事務局にて手続きを進めていくとともに、補完サービスについては、しっかり地域、事業者と協議し、調った段階で改めて本会議に報告するというところでよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<b>議題 (2) 下里地区におけるグリーンスローモビリティ実証実験の実施について</b>	
榎井会長	<p>続きまして、報告案件として(2)の「下里地区におけるグリーンスローモビリティ実証実験の実施について」です。こちらは交通空白地ということで、平成21年には当会議で路線バス延伸という実証実験を実施した地域になります。当時は需要が多くなく、延伸の実現はしませんでした。その後も、地域の中では対策の検討が続いてきました。</p> <p>今回、その地域の支え合いの活動の中で、ゴルフカートを使い、地元のバス停や移動販売所までを繋ぐという活動を始められました。今後、他の交通空白不便地での対策の参考となり得る可能性もあるため、当会議で活動内容を報告したいと思えます。</p> <p>それでは、事務局から説明をお願いします。</p>
政策企画課	<p>「下里地区グリーンスローモビリティ実証実験計画書」について説明</p> <p>(各委員及び事務局の主な発言内容は以下のとおり)</p>
日野副会長	今回はゴルフカートを無償で借りるとのことだが、試行運行をしたとして、7人乗りということは2、3人乗ればよいと考えておられるのかなという感覚はあるが、本格運行に移行する場合、車両はどうするかなど、今の時点で予定、計画などはあるのか。
政策企画課	今の時点では予定は定まっていない。この結果を見て、地元と協議しながら考えていきたいと思う。
日野副会長	南花台はもともと、自動運転の実装実験という目的のためにこの車両を導入されたという経緯がある。こちらは誰がどのように運営していくのか。車両費などの初期

	費用も含めて、市が導入するということであれば補助を出すことにもなる。試行の時はいいが、その後、乗らなかったからそれでやめてしまうのか。オンデマンドにするとか、タクシー券を配るとかでもいいが、もし利用者がたくさん乗られて、本格に移行するということになれば、将来的に維持するための費用をどうするかなどについても、それも試行結果を見てということか。
政策企画課	そのあたりも含めて試行実験とさせていただきます。
上野委員	天野町の中尾というところが私の家で、バス停から400m以上離れている。中尾地域では、このことはこの前まで知らなかった。町内会も通行しているので、事前に知らせてほしかった。我々の町内会の人も、乗車してもかまわないのか。
榊井会長	下里地区以外の方も乗車できるのかどうか。
政策企画課	下里地区以外の方も乗車いただけることを下里町会の方で、意見はまとめているので、他の地域の方もご乗車いただけます。
上野委員	わかりました。これまでの乗車人数はわかりますか。
政策企画課	12/16までの運行の情報ですが、バス停ルートが3日間、コープルートが3日間運行しているが、バス停ルートが9名、コープルートが17名、合計26名に乗車いただいている。目的は、買い物客が20名、通院が4名、その他が2名となっている。
榊井会長	私はこの地区の住民ではないが、乗ってもかまわないのか。
政策企画課	ご自由に乗っていただけます。
	<b>その他の意見</b>
日野副会長	南海さんから、河内長野の路線は赤字だったが、今まで他のところでの黒字で賄っていたというお話であったが、南海さんで黒字の市町村はあるのか。あるなら、そこはなぜ黒字なのか。それを赤字の市町村の参考にできないのか。 うまくいっている自治体の運行状況を赤字の市町村にアドバイスできるようなことがあるなら、事業者さんからお願いしたいという要望です。 将来的にますます高齢化が進み、人口減少により、公共交通空白地はどんどん増えていく。自治体も財源がないために地域で協力する形になっていくことが考えられる。地元の高齢者が高齢者を運ぶという形をとらざるを得ない。しかし、免許返納が進んでいることもあり、運転する人がいないという問題がある。今後自家用有償を認めて地元で頑張っていくといっても、それさえも難しくなっていく。10年、20年後の在り方を考えてほしい。一方で南花台の自動運転のような技術革新で対応できることもあるかもしれない。もう一方では都市計画的に立地適正化計画で皆さんができるだけ集まって、生活できるような環境づくりを進めてほしい。さらに、宅配、往診などについてシステム化をすることも可能かもしれない。それらの点を含めて、現状の問題と併せて、10年後、20年後の問題もこの会議の中で検討していただきたい。
秋元委員	河内長野市内は赤字だが、自治体単位でここは赤字ではないというところはない。路線バスは全般的に収支状況が悪い。路線によっては黒字の路線もあるが、例えば

<p>岩佐委員</p>	<p>住宅地から駅へ向かう路線は利用客が多いが、逆方向は人が乗っていない。南花台のように、駅へ行く方も利用が多く、学校ができてその逆方向も利用が増えたという路線は黒字。どうしても収支が悪くなるのは山間部で、長距離の路線は車両や人にかかる割には収入が上がってこないため、厳しい路線経営となっている。</p> <p>私の方から補足いたします。</p> <p>弊社の路線バス事業は全般的に非常に厳しい状況であるというのは、コロナ前から進んでいた。都市間の高速バス、関西空港を中心とした空港関連の輸送が大きな柱となって事業を継続してきた。この辺りがコロナで一変し、経営が厳しくなっている。南海バスに限らず他の公共交通を担う会社も同じである。また、運転手の不足、人口減少による利用客の減少もバス事業者共通の悩みとなっている。</p> <p>自治体と協議をしたり、支援をいただいて時間を稼いでいるような状況。</p> <p>さらに、エネルギー問題・脱炭素も課題。電気自動車や、FCバス、無人運転が今後公共交通を維持するカギになると考えている。我々の業界あげてなんとか維持できるような先を見据えて取り組んでいきたい。</p>
<p>柳井会長</p>	<p>以上をもちまして、第51回河内長野市地域公共交通会議を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。今後とも、本市の公共交通の維持・充実に向け、皆様のご協力をお願い申し上げます。本日の会議を終了させていただきます。長時間にわたり、誠にありがとうございました。</p>

## 河内長野市地域公共交通会議名簿

		氏名	所属・役職	出欠
1	会長	榎井 繁春	河内長野市 副市長	
2	副会長	日野 泰雄	大阪市立大学 名誉教授	
3	委員	伊勢 昇	和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授	
4	委員	中西 克之	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 総務企画部門 首席運輸企画専門官	代理出席:国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 総務企画部門 運輸企画専門官 小林 純平
5	委員	河原 正明	国土交通省 近畿運輸局 大阪運輸支局 輸送部門 首席運輸企画専門官	
6	委員	松井 利公	大阪府 都市整備部 交通戦略室 交通計画課 課長補佐	
7	委員	北谷 龍弥	大阪府 富田林土木事務所 地域防災担当参事兼地域支援・企画課長	欠席
8	委員	長野 健一	大阪府 河内長野警察署 交通課長代理	
9	委員	秋元 克之	南海バス株式会社 企画部 企画課長	
10	委員	岩佐 浩二	南海バス株式会社 営業部 営業部長 兼 営業課長	
11	委員	坂本 頼幸	南海バス株式会社 労働組合代表	
12	委員	林 邦昭	大阪第一交通株式会社 長野営業所長	
13	委員	坂部 英嗣	近鉄タクシー株式会社 南大阪総合営業所 副所長	欠席
14	委員	小出 泰弘	南海電気鉄道株式会社 鉄道営業本部 えきまち計画推進部課長	欠席
15	委員	下垣内 力也	近畿日本鉄道株式会社 古市駅長	
16	監事	山田 昭儀	河内長野市老人クラブ連合会 会長	
17	委員	上野 修二	河内長野市観光協会 会長	
18	委員	西尾 元嗣	河内長野市商工会 会長	
19	監事	黒田 良子	市民公募	
20	委員	仲村 義郎	市民公募	
21	委員	和田 全功	河内長野市市民保健部長	
22	委員	中橋 栄一	河内長野市福祉部長	
23	委員	島田 俊彦	河内長野市環境経済部長	
24	委員	田中 博行	河内長野市都市づくり部長	
25	委員	大林 蔵	河内長野市総務部長	
26	委員	野川 弘嗣	河内長野市総合政策部長	

# バス路線（小深線石見川系統）の 廃止に伴う代替手段の確保について

形成計画 基本方針①－③人口減少による公共交通の利用者減少を見据えた、地域に応じた移動手段確保の検討

基本方針③－⑩地域の特性とニーズに応じた運行の検討  
公共交通空白・不便地域の実情に合った公共交通の検討

## 議題

①スクールバス（地元住民混乗可）の導入について

## 報告

②スクールバスを補完するサービスの検討について

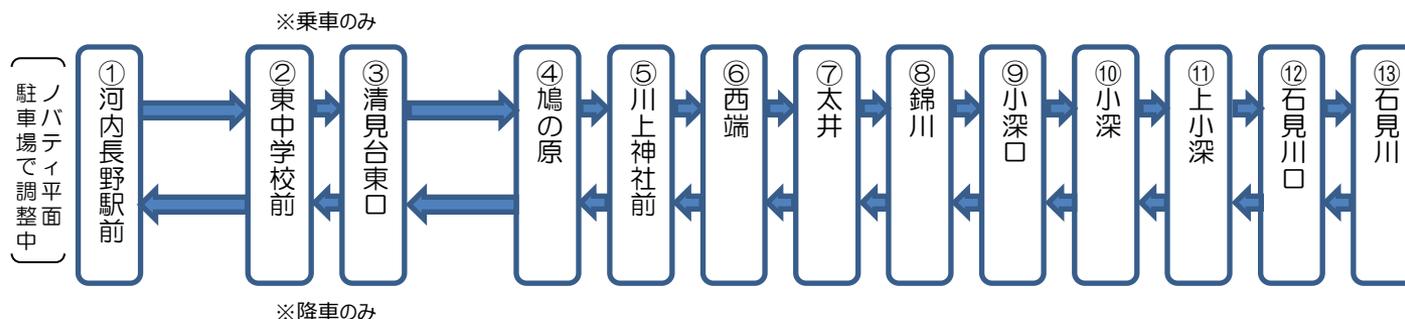
# ①スクールバス（地元住民混乗可能）の導入

## 地元住民が混乗可能なスクールバスの導入（市町村有償運送）

### 概要

- ・令和4年4月1日から市でマイクロバス（29人乗り※補助席含む）を運行
- ・利用対象者（旅客の範囲）は、鳩の原バス停～石見川バス停間の沿線地域住民

### ルート



路線バス小吹台線が  
終日運行しており、  
競争を避けるため、  
小中学校の最寄りの  
バス停以外は停車しない

金剛山ロープウェイ系統が、  
時間帯によって運行している。  
（駅行：9-16時台は8便）  
（駅発：7-15時台は7便）

# ①スクールバス（地元住民混乗可能）の導入

## ダイヤ（小中学校に合わせたダイヤ）

### A. 小中学校の授業がある日

河内長野駅前 発（下校用）	河内長野駅前 着（登校用）
(1) -	(1) 8:10頃着
(2) 15:05頃発 ※小学校14:45下校の日（主に水曜日） 中学校15:05下校の日に運行	(2) 16:10頃東中学校前着 ※河内長野駅前までは行かない
(3) 16:05頃発 ※(2)が運行する日は駅前発ではなく東中学校前発（16:15頃） ただし、駅前からは、既存のバス路線との乗り継ぎで対応可能	(3) 17:20頃着
(4) 【10～2月】17:30頃発 【3～9月】18:10頃発	(4) 【10～2月】19:00頃着 【3～9月】19:20頃着

その他、短縮授業の場合は、その時間（11～13時台）に合わせて臨時便を運行。（児童・生徒の送迎のみ。混乗なし。）

### B. クラブ活動のみの日（土曜日、春休み、夏休み、冬休み）

河内長野駅前 発（下校用）	河内長野駅前 着（登校用）
(1) -	(1) 7:25頃着
(2) 7:30頃発	(2) 8:45頃着
(3) 8:50頃発	(3) 10:05頃着
(4) 11:10頃発	(4) 12:25頃着
(5) 12:40頃発	(5) 13:55頃着

# ①スクールバス（地元住民混乗可能）の導入

## 利用料金（運賃）の設定

実費の範囲内 かつ 現在運行している路線バス（小深線石見川系統）の運賃を参考

### ・現行の運賃

区間	運賃
河内長野駅前 ⇔ 鳩の原	320円
河内長野駅前 ⇔ 川上神社前～太井	380円※
河内長野駅前 ⇔ 錦川～小深	420円※
河内長野駅前 ⇔ 上小深～石見川	500円※

※モックルカードで1日乗り放題になるため、往復で利用する場合は、実質的には往復650円（片道325円）

### ・考え方

①スクールバスとして運行するため、サービスレベルの観点から現行水準と同等レベルは非現実的

②鳩の原～小深までは、南海バス（金剛山ロープウェイ系統）が存続しており、

行きは市マイクロバス・帰りは南海バスを利用する場合（モックルカードを利用するメリットが無い場合）でも負担増にならないようにする

⇒ 小深で往復利用する場合

（往）市マイクロバス ●●円 + （復）南海バス420円 < （モックルカード）650円

片道200円

# ①スクールバス（地元住民混乗可能）の導入

## 利用料金（運賃）

- ・川上小学校・東中学校に通う小中学生の自宅⇔学校間は無料（定期券を発行）
- ・一般利用は、回数券が1枚200円/回（小学生は100円、未就学児は無料）  
定期券が2,000円/月（小学生は1,000円）

## 利用方法

- ・市が事前に販売する回数券もしくは定期券を購入（現金での利用は不可）
- ・利用時に回数券は回収、定期券は乗務員に提示
- ・運行ダイヤは月ごとに決定（約半月前に連絡）



# ①スクールバス（地元住民混乗可能）の導入

## 制度

河内長野市を運行主体とした「事業者協力型自家用有償旅客運送」

道路運送法の事業許可を持つ一般旅客自動車運送事業者が、  
運行管理及び整備管理の実務に協力する。

## メリット

- （利用者） 交通事業者が、運行管理、車両整備管理に協力することで、  
より安心、安全なサービスを受けることが可能
- （運行主体） 運行管理等に関する業務負担の軽減や運行ノウハウの活用を  
図ることが可能
- （交通事業者） 収入の確保による経営や他路線の維持につなげることが可能

## ②スクールバスを補完するサービスの検討

### スクールバスの課題

地域住民の移動手段について、地元説明会ではスクールバス（地域住民混乗型）の便数に限りがあり、不安の声が一定ある。

#### ●平日

石見川→河内長野駅前

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(路線バス) 石見川発		29	36	37									37					

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(スクールバス) 石見川発												45	45	25~45				

河内長野駅前→石見川

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(路線バス) 石見川行		56					43		37	*50		#2 55		12	39		24	

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(スクールバス) 石見川行												5	5	17:30~ 18:10				

#### ●休日（新しい運行では、学校の長期休暇中も休日ダイヤで運行）

石見川→河内長野駅前

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(路線バス) 石見川発			38	36	15		0		29							32	36	

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(スクールバス) 石見川発			50		10	30		50		20								

河内長野駅前→石見川

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(路線バス) 石見川行	55							52		52		2		54		0		

時	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
(スクールバス) 石見川行			30	50				10	40									

空白

### 対策

スクールバスでカバーできない移動手段について、アンケートによるニーズ把握を実施し、地元の検討会で補完サービスを検討中。（令和4年4月～試行運行を予定）

将来的には需要に合わせた本格運行を目指す。

### 方向性

路線バスの利用実績から大型車両による運行は不経済なため、タクシー車両を活用した乗合タクシー※の導入を検討

※定時定路線、デマンド方式、両者組み合わせなど

# これまでの経過と今後の協議事項

## これまでの経過

令和3年

- 4月 鳩原、太井、小深、石見川自治会にて路線廃線の連絡
- 6月 各自治会において代替手段の方針を提示
- 8月 遠距離通学の保護者との意見交換
- 9月 4自治会長と意見交換
- 10月 遠距離通学の保護者と運行ダイヤ（平日・休日）の検討
- 10月 4自治会合同説明会で運行ダイヤ（通学関係）の報告
- 11月 各自治会において補完サービス導入に関する意見交換
- 11月 遠距離通学の保護者と運行ダイヤ（短縮授業時）の検討
- 11月 遠距離通学の保護者と運行ダイヤの決定
- 12月 4自治会の代表者と市で補完サービスの検討



12月地元検討会の様子

## 今後の協議事項（補完サービス関係）

4自治会の代表者と市で  
補完サービスの試行運行案を作成  
(運行形態、ルート、運賃、停留所など)

- ・各自治会へ報告
- ・地域公共交通会議へ報告
- ・大阪運輸支局へ届出

## 下里地区グリーンスローモビリティ実証実験計画書

### 1. 目的

下里地区は、本市の公共交通空白地域（駅から800m、バス停から400m以上離れた地域（河内長野市地域公共交通計画62頁参照））として、過去から本市が地域と一体となり移動手段の確保に向けて取り組んできた地域であり、当該地区の住民から、南花台地区の事例をモデルとして、グリーンスローモビリティを活用した移動支援を地域住民主体によって実施したい旨の申し出があったことから、当該地区の移動手段確保を図るために実施するものです。

### 2. 運行内容

#### ① 実施期間

令和3年11月30日（火）から令和4年1月27日（木）まで（別紙①参照）

#### ② 走行ルート及び時間（別紙②参照）

ア：バス停ルート（月曜日と火曜日に隔週で実施）

午前便

○集会所9時45分発→バス停前10時00分着

○集会所10時45分発→バス停前11時00分着

午後便

○バス停前15時00分発→集会所15時15分着

○バス停前16時00分発→集会所16時15分着

イ：コープルート（毎週木曜日実施）

○Aルート（コープ駐車場所「東地藏さん前」）

10時50分～11時30分まで

○Bルート（コープ駐車場所「西川さん宅前」、「前田嘉平さん宅前」）

11時35分～12時30分まで

#### ③ 使用車両

ヤマハ グリーンスローモビリティ

ゴルフカートタイプ 7人乗り

#### ④ 運行体制

運転手1名、添乗者1名の2名体制で運行

### 3. 実施体制

#### ① 実施団体

下里町「クルクル」運行チーム

#### ② 実施責任者

下里町「クルクル」運行チーム 代表 道端 喜人

#### 4. 検証内容

運行期間終了後に下里町会全戸を対象に実用化に向けたアンケート調査を実施。

「走行ルート」、「時間」、「利用目的」等のアンケート内容を参考に令和4年度以降の実用化を検討していく。

2021年11月

別紙

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30 バス停行				

2021年12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 コープ	3	4
5	6 バス停行	7	8	9 コープ	10	11
12	13	14 バス停行	15	16 コープ	17	18
19	20 バス停行	21	22	23 コープ	24	25
26	27	28 バス停行	29	30 休み	31	

2022年1月

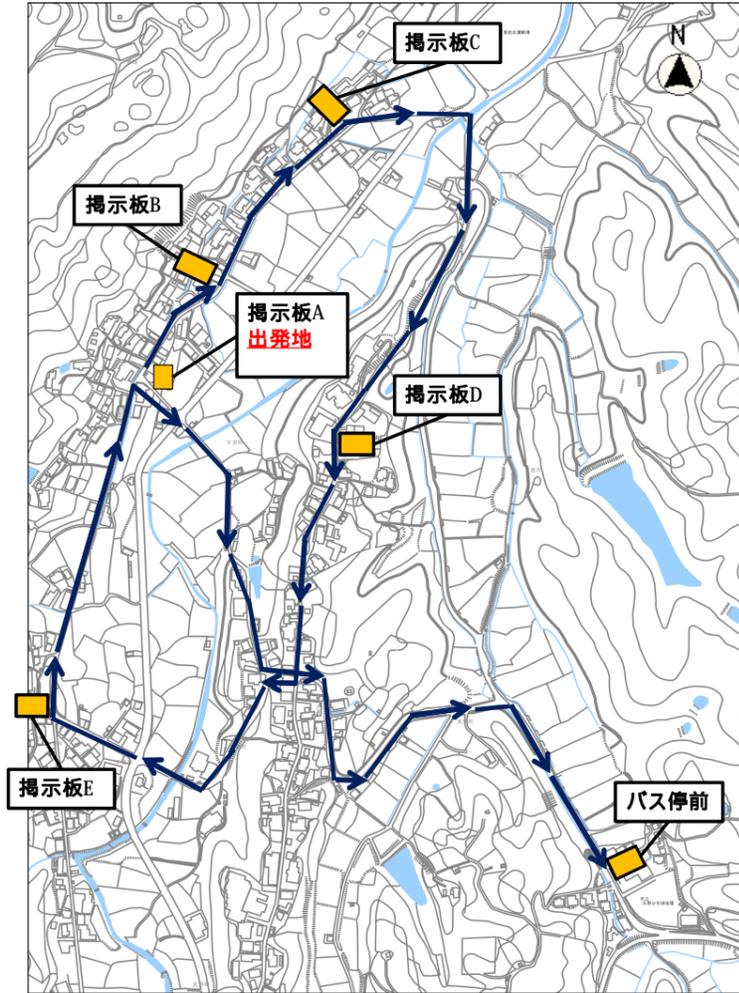
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 休み	4	5	6 コープ	7	8
9	10	11 バス停行	12	13 コープ		15
16	17 バス停行	18	19	20 コープ	21	22
23	24	25 バス停行	26	27 コープ (最終日)	28	29
30	31					



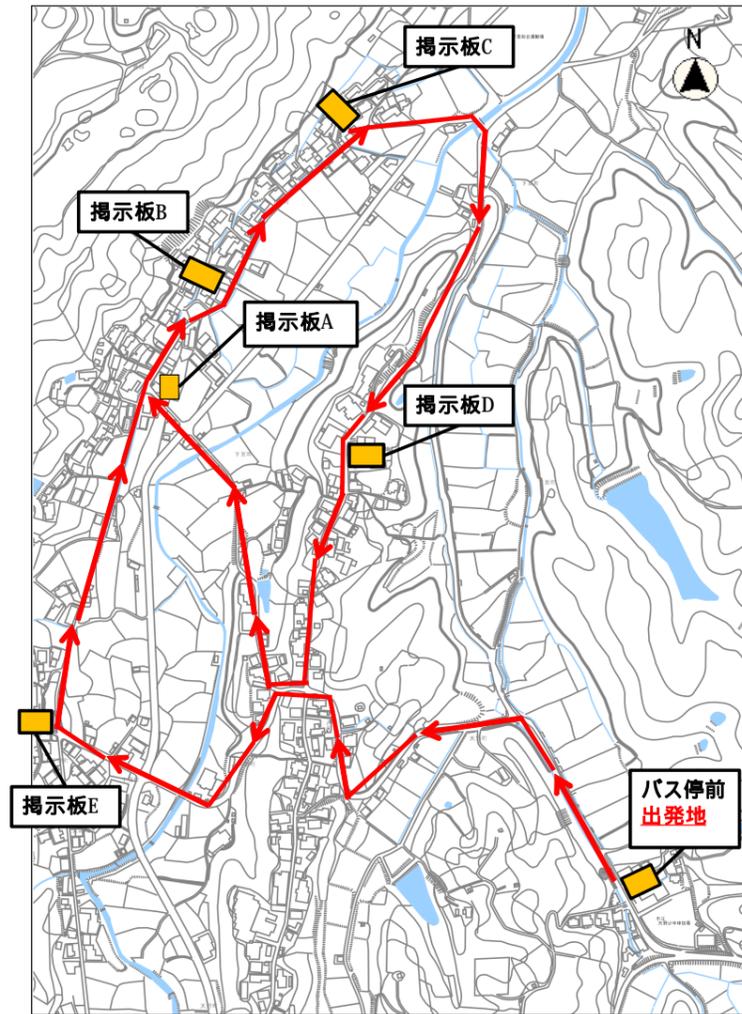
のんびり、楽しく、いかへん？

クルクル

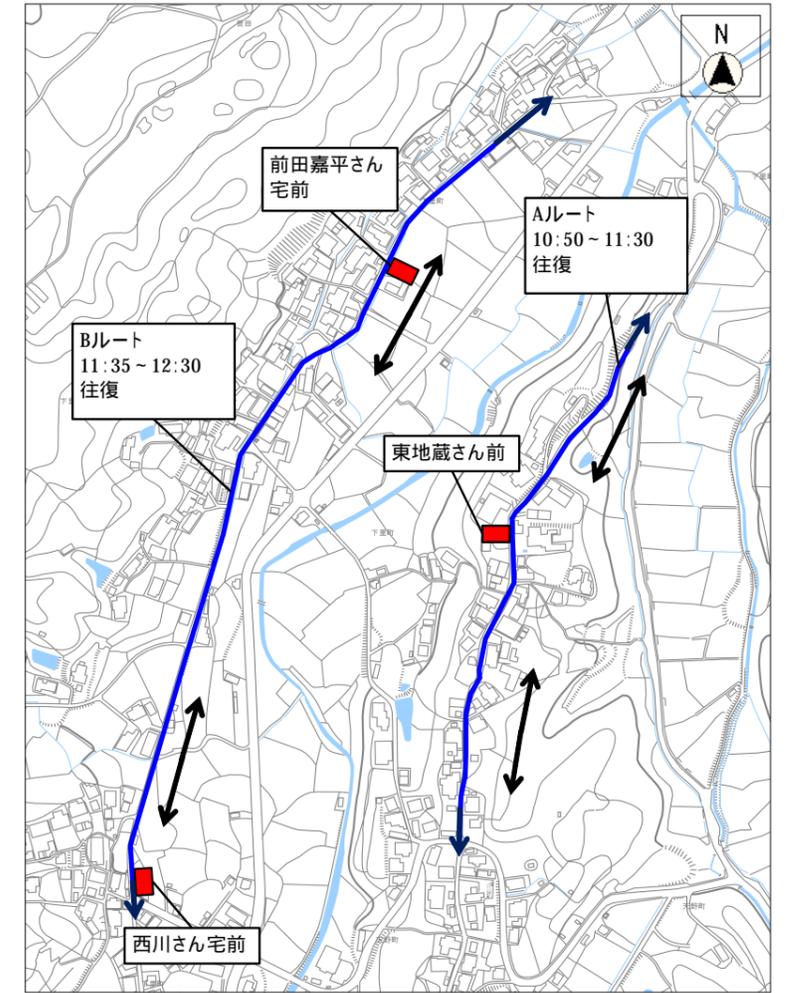
月・火曜日 バス停ルート上り



月・火曜日 バス停ルート下り



木曜日 コープ用ルート



	第1便	第2便
掲示板上り 出発地	9時45分	10時45分
掲示板上り B	9時46分	10時46分
掲示板上り C	9時47分	10時47分
掲示板上り D	9時50分	10時50分
掲示板上り E	9時53分	10時53分
掲示板上り 2回目	9時55分	10時55分
バス停前	10時00分着	11時00分着

	第1便	第2便
バス停前 出発地	15時00分	16時00分
掲示板上り E	15時04分	16時04分
掲示板上り A	15時06分	16時06分
掲示板上り B	15時07分	16時07分
掲示板上り C	15時08分	16時08分
掲示板上り D	15時11分	16時11分
掲示板上り 2回目	15時15分着	16時15分着

Aルート：10時50分～11時30分

Bルート：11時35分～12時30分

時間中各ルートを往復して連続運行いたします。

バス時刻 下里口発 河内長野駅前着  
 第1便：10時22分発 10時39分着  
 第2便：11時22分発 11時39分着

バス時刻 河内長野駅前発 下里口着  
 第1便：14時37分発 14時50分着  
 第2便：15時35分発 15時48分着



Shimozato Mobility

のんびり、楽しく、いかへん?  
**クルクル**

地域で育てる移動支援

# 下里モビリティ「クルクル」 運行実験開始！！



現在、南花台では南花台モビリティ「クルクル」という電動ゴルフカートを活用した地域住民主体の移動支援の取組みが行われています。

このカートを活用して下里地区でも地域住民の足となる移動支援が可能となるか、実証実験を行います。

**実験期間は 11月30日（火）～1月27日（木）です。**



のんびり、楽しく、いかへん？  
**クルクル**

詳しい運行日は運行カレンダーをご確認ください。